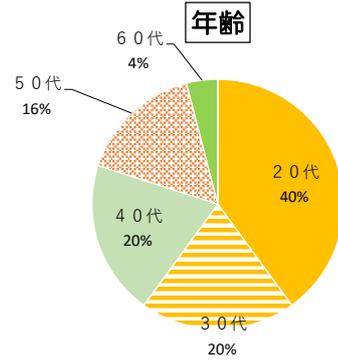
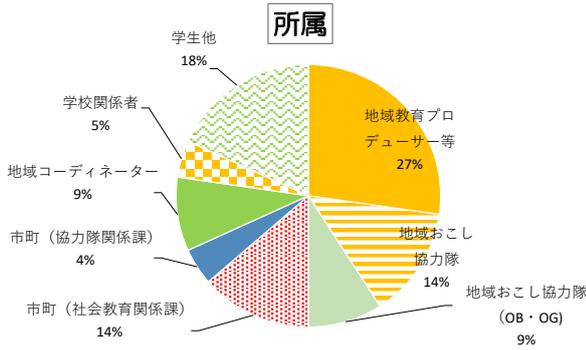


令和4年度「地域教育プロデューサー配置支援事業」
第3回地域教育プロデューサー等ステップアップ研修会及び第3回情報交換会
アンケート結果

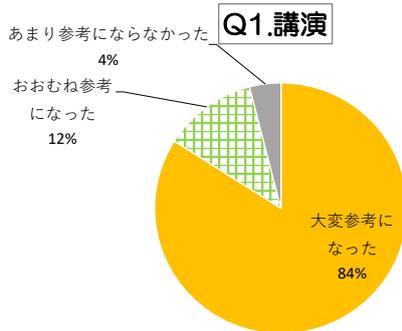


《HP用》

○ アンケート回答者25名



Q1 講演について



【理由】

地域教育プロデューサー・地域教育協力隊、地域おこし協力隊

- 私たちができることは、まだまだあると感じた。
- 松野町教育委員会の取組と類似している点も多くとても参考になった。
- 江森様のコーディネーターとしての動き方、日笠様の協力隊への思いがとても参考になった。
- 教育を中心としたまちづくりの展開などを聞いて、参考になった。教育という視点と、まちづくりという視点のバランスが難しいと感じた。
- 和気町の事例がとても興味深く、自分の活動にも活かせる部分があり、とても刺激になった。行政目標が教育になったあとの動きが具体的に形になっていて素晴らしいと思う。トップが動くと大きなことができるし、足元から動くと地域が助けてくれると感じた。
- 現役協力隊として、日笠さんのように町職員側の理解や認識がどのようであれば、一緒に地域活性化に取り組んでいきやすくなるのかに気付くことができた。江森さんについても、教育関係に関わった協力隊として活動の仕方や卒業後の町との関わり方やキャリア形成など、とても参考になった。お二人とも、協力隊とその関係者にとってロールモデルだと感じた。
- これからの自身の活動に生かせる内容であり、町側との信頼関係をどう築いていけばよいか考えるきっかけになった。
- 教育を軸にしたまちおこしの効果を知った。やる人がいないだけで気概があれば誰でもできるという自信を持つことができた。

市町地域おこし協力隊関係職員・教育委員会職員

- 他地域の先進事例を学ぶことができ、とても参考になった。
- 大変勉強になった。制度を上手に活用して、高校の独自性や魅力を創出したことは素晴らしいと思う。
- △今回の研修も社会教育関係者より、高校教育か中学校の教職員が聞くべきだと思った。社会教育関係者は、受け入れの体制を整える立場だと思う。子どもたちの成長に必要なところもある。学校と地域との連携は必要であるが、地域教育プロデューサーが中心になるのであればその役割は重要である。社会教育関係者より、まちづくり推進課の研修をするべきだとも思う。

地域コーディネーター・学校関係者

- 公営塾に特色を持たせる取組があるとは！と驚いた。高校のキャリア教育が地域の活性アップとしっかり連動していて、まち全体で相互リスペクトがある愛着と発展がつくり出されていることに感動した。
- 高校と小中学校では少し関わり方が違うが子どもに生きる力をつけさせたという思いは同じで、勇気と元気をもらった。
- 勤務校の魅力化に取り組む中で、地域とのつながりや関係をつくっていくための成功事例を伺うことができてよかった。

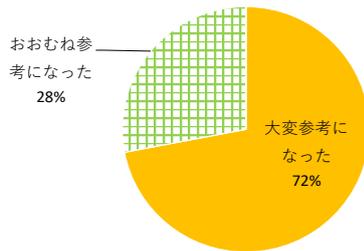
学生他

- 教員を目指す際に地域とのつながりを考えていくことが大切だと改めて感じた。地域教育プロデューサーの方々とつながりが学校教育の充実につながると感じた。
- 私も学校教育と地域をつなげたいと思い続けていたので、自分の考えと同じところや新しい考え方を知ることができた。
- 教育とまちづくりは、これからの子どもたちの未来と地域の未来にとって、重要な視点だと感じた。ふるさとのために、様々な方と一緒に取り組むことが大切だと思った。
- 関わっている地域以外の取組を聞くことができて、新しい教育の視点を発見することができた。
- 先進的な事例で大変参考になった。

○成果 △課題

Q2 活動報告・トークセッションについて

Q2.活動報告・トークセッション



【理由】

地域教育プロデューサー、地域おこし協力隊

○小田分校はラジオでもCMを聴いていたので注目していた。小田原さんの話で印象に残ったのは、生徒が役場に電話しているんなものを借りているというところで、生徒にとって程よいストレッチゾーンをつくっているんだろうと推察した。

○たくさんの学びを得ることができた。

○具体的な事例が多く、参考になり、刺激もたくさんもらった。一方、自地域に持ち帰った時に何ができるだろう？ということに改めて考えないといけないと思った。

○小田原さんの活動に感動した。とても素晴らしい！多くの活動のヒントをいただいた。ありがとうございました。

○プレゼン内容やまとめ方など、とても分かりやすかった。3年間奮闘されたと思うが、実績をしっかりと積み上げられていて素晴らしい。新卒で着任したにも関わらず、ここまで小田分校を支え協力できたのは、小田原さんが優秀であるとともに、内子町や小田分校の先生方、地域の方々の周りのサポートがあったからだと思う。お人柄も朗らかで魅力的であり、今後も内子町に残られるということで、ご活躍が楽しみである。

○教育はお金を動かせる。

○明日からの業務に活かすことができる。

市町地域おこし協力隊関係職員・教育委員会職員

○小田高が廃校を回避するために広報活動に力を入れたこと、そこに子どもが集まったこと、それに地域が積極的に関わってくれたこと一連の流れが成功につながっていて素晴らしいと思った。

地域コーディネーター・学校関係者

○小田原さんが子どもを真ん中に置いて事業に取り組み、地域のボランティア・教育力を引き出すことにより、地域の活力を高めていることが素晴らしい！

○私辞めますよで3億を動かせるようになりたい(笑)

○江森さんの軸になっている「良い社会をつくりたい」という考え方に共感した。

学生・その他

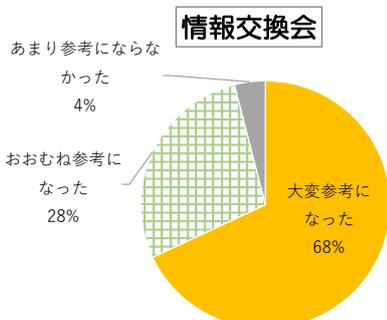
○地域によって様々な少子化対策をしているという現状を知ることができた。

○地域のために、これまで多くのアイデアとつながりを生み出し、実際に形にしていくというパワーとその過程に感動した。これからの展開も楽しみだ。

○楽しいトークセッションで良かった！

○成果 △課題

Q3 情報交換会について



【理由】

地域教育プロデューサー、地域おこし協力隊

○意見交換の中でFC今治の岡田監督が思い描く世界について聞くことができ、ワクワクできた。教育ということばが目の前にあると焦点に霧（もや）がかかりがちだが、スポーツ、文化など細分化していくとそれぞれの視点からの地域教育があることに改めて気が付いた。

○地域にとって、高校はどんな意味があるのだろうか？など新しい問いが生まれる時間だった。
○時間が短かったのであまり議論はできなかったが、自己紹介ができて新しい人と出会えたので有意義だった。
○現場の声を聴くことができた。
△ほぼ自己紹介で終わってしまったので、もう少し時間が欲しかった。
市町地域おこし協力隊関係職員・教育委員会職員
○学校家庭地域連携推進やコミスクの話が聞けて良かった。
地域コーディネーター・学校関係者
○グループ分けが難しいと感じた。
○次のステップへの手がかりを得た。
○高校の存続や生徒数増のことだけでなく、地域とのつながりや小・中連携を図るなど、幅広い取組が必要だと感じた。
学生・その他
○教師と地域プロデューサーとのつながりが大切だというお話を伺い、地域人材を知っておくことがいかに重要か考える機会になった。
○知りたかったことを聞くことができてよい機会となった。
○様々な年齢層の方々の話を聞くことができた。
○高校のブランディングについて議論した。制服を変えるだけでも学校のイメージが変わる、という意見が印象的だった。

○成果 △課題

Q4 全体の感想、本事業についての意見、要望等

【意見・要望等】
地域教育プロデューサー、地域おこし協力隊
○高校魅力化プロジェクトに携わるものとして、明日から行動できる具体的な指針をいただくことができました！どうもありがとうございました。
○とても刺激を受ける研修会になりました。やれることはまだまだあるな、とモチベーションがあがりました。今後もよろしくお願ひいたします。
○本研修会は毎回グレードアップされているように感じます。登壇されるゲストも大変ためになるトークや情報が多く、ネットワークづくりもできるため、参加する意味を強く感じることができる研修だと思ひます。
○とても良い事業だと再確認した。ありがとうございました。
市町地域おこし協力隊関係職員・教育委員会職員
○地域独自の魅力ある教育を受けることができる環境づくりとその効果で、地域が元気になることは素晴らしいと思ひます。しかし、子どもが減り続ける中で子どもの取り合いを続けるだけでは、そのうち地域が疲弊して続かなくなってくるのではないかと思ひます。都会から子どもを取ることができれば問題ないのかもしれませんが、子どもの取り合い競争のようにならないように考える必要もあるのではないかと思ひます。
地域コーディネーター・学校関係者
○地域教育・地域おこしに精通した人材(プロデューサー)がいることを、学校の先生方に知ってもらふ必要があると思ひます。具体的に、「学校運営協議会委員や地域コーディネーターに適任な方、いますよ！」「協働活動を牽引できる人材が養成されますよ！」という情報提供などが必要かと思ひました。
○地域おこし協力隊や地域プロデューサーとつながることで、自分の地域だけでなく市内を巻き込む一歩になる気がしています。ありがとうございました。
○初めて参加させていただいたが、今後の学校魅力化に向けてやるべきことが整理できてよかった。ありがとうございました。
学生・その他
○初めての研修会でしたが、教員を目指す身として様々な学びがありました。地域のために活動している方が少子化対策に力を入れているという現状を、教育学部の学生は特にしっかり理解しておくべきだと思ひました。
○初めて参加させていただいたのですが参加してよかったです。ありがとうございました。

Q&A 参加者の方々からの質問にお答えいただきました。

Q.1

協力隊任期後の仕事について。教育ミッションの協力隊は起業しづらいので和気町の協力隊は任期終了後どのように生計を立てているのでしょうか？

A.1 【江森氏より】

これまでの例

<町に残っている人>

- ・岡山県の教員採用試験に合格し、中学校教諭に
- ・個人で塾を起業・個人で塾を起業&高校コーディネーターを続行
- ・個人事業主として、教育系編集&ライティング/コーディネーター/その他諸々

<町外に出た人>

- ・四国の自治体の公営塾立ち上げ
- ・東京ベースの塾スタッフ
- ・首都圏の大学で非常勤で英語を教える
- ・首都圏の教育系IT企業に就職

教育系の協力隊は、元々教育系の経験がある人が多く、前職に戻る、というパターンもあります。



A.1【日笠氏より】

地域課題解決は商売になりやすく、誰もやらないから町がやる。町は人材不足だから協力隊制度を使うという構図なので、そもそもミッションに近い内容で起業・定住するのは難しいと思っており、教育ミッションであればなおさらだと思っています。

過去の定住してくれた教育系協力隊員の仕事といえば、以下のあたりでしょうか。

- ・公営塾担当 → 私塾経営(個人事業主)
- ・日豪遠隔交流 → 一般企業(英語を生かせそうなところ)
- ・高校魅力化 → 教育系一般社団法人起業

初期の教育系協力隊員は、町が定住してくれることを重要視していなかったこともあり、ほとんど定住していないという苦い経験があります。

今後は、ミッションとは全く関係なくてよいので、任期中に定住を目指した活動に時間を費やせるような仕組み・環境(勤務体系調整や周囲の理解)をつくっていく必要があると考えています。

Q.2

日笠さんに質問です。協力隊担当の職員さんへの引き継ぎや意識統一にあたって、実際にどのようなことをしていますか？マニュアル作りや研修、協力隊担当職員の組織化、飲み会など、教えてください。

A.2【日笠氏より】

協力隊担当職員の引継ぎは、職員として異動の際に行われる通常の引継ぎ作業に含めて実施しています。しかし、これだけでは確かにまずいところがあります。隊員が配置されている部署の担当と隊員だけでミッションを進めていると、隊員はその担当にしか相談できず、視野も狭くなり、孤独を感じるケースもあります。

また、担当の職員も、協力隊制度を使ってどうしたかったのか、異動を繰り返すと、初期の目標がズれてきて、最悪の場合、隊員を管理するのが自分の仕事だと錯覚し、ミッションの進捗は隊員任せ、進まなければ隊員の責任みたいなことになりがちです。

そうならないように、和気町では、毎月もしくは隔月で協力隊制度を導入する複数の部署の担当と協力隊が集まる「協力隊ミーティング」を実施しています。議題が無くとも集まり、情報交換をしたり事務連絡をしたりすることで、隊員は、ミッションの違う隊員との連携を図り、自分の活動を見直す機会になります。

また、担当職員は、担当業務に協力隊制度を導入している意味を再認識する機会になっています。

ここ3年はできていませんが、今後は飲み会なんかもあったらいいと思います。

江森様、日笠様、小田原様、
アンケートにご協力いただき
ましたみなさま、
ありがとうございました♪

